

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)
事業期間を通じた評価

国立大学法人岡山大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

A	当初の構想どおりの取組が行われ成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。
---	--

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の
事業期間を通じた評価

国立大学法人 岡山大学

(検討会の所見)

- イノベーション・エコシステムの構築による大学の収入構造改革を目指して、医療分野にリソースを集中して社会課題を解決しようとするもので、事業計画に斬新さと大胆さがある。また、IMaC や SDGs 推進大学、イノベーション創出×収入構造改革、ERM、アジャイル型手法など、改革(変革)を推進するための中心になる基本的な理念・考え方も効果的に機能している。これらは、自然に第4期の大学経営に反映され、その意味でも、この国立大学経営改革促進事業の趣旨を体現したものになっている。
- ERM という教育・研究の組織改革を基盤に、臨床医学という従来から強みのある分野の力を最大限引き出しつつ、改革の取り組みが加速していると高く評価できる。全学レベルで高いモチベーションが維持されているように見受けられるが、その背景には、従前から岡山大学が取り組んできた、実力本位で透明な人事マネジメント改革が奏功している面も大きいのではないかと。第4期中期目標期間においては、得意分野のさらなる強化に加え、スーパーシティ構想を教育やモビリティ、防災等にも拡げ、全学レベルで社会のニーズに応える取り組みをさらに加速させることが期待される。
- まだ一年目であるが、順調に改革が進んでいる。コロナを契機に、組織風土の改革にも着手出来ているようで、期待している。大半の KPI も達成出来ている。
- 地域の中核大学としての目指すべき方向は素晴らしい。ぜひその方向に向かって改革を進めてほしい。強みのある臨床医学分野を中核に大学を強化し、得られた資源を他分野に分配するという方向性は支持したい。一方で、その資源配分の戦略性、すなわち目指すべき大学の将来像に沿った資源配分を行うことを期待したい。
- 統合リスクマネジメント (ERM)を中心に大学経営の新しい方向性が少しずつ浸透している様子が見られる点は評価したい。今後の広域の地域展開がどのようになっていくのか注目している。特に、四国の北部も含めて瀬戸内海の経済圏との間で、ヘルスケアというキーワードでの広域連携に岡山大学がハブとなっていけるのか今後に着目したい。
- 医療バイオ領域への重点投資により外部資金獲得を実現し、その果実を他の特定分野に波及させるという、まさに「選択と集中」的なリソース配分であるが、10 学部9研究科を持つ総合大学の多様な学問分野の教育研究をそれぞれ継承・発展させていくという、大学本来の使命を維持していけるのかどうか、また全学の教職員全体の意識改革に繋がるのかどうかという疑問がぬぐえない。